



活躍の場は海外へ



時代が求める人材

労働党大会にてバーナム影の保健大臣と(筆者左)

在英国日本国大使館一等書記官 折田 裕幸

今から150年前の1863年、ヴィクトリア女王の治世下で最盛期を迎えていた英国の首都ロンドンに20代の長州藩士5人を乗せた船が到着しました。彼らは、ロンドン大学等で最新の知識を学んで帰国。明治期の近代国家建設において中心的な役割を果たし、後に長州五傑(伊藤博文、井上馨、遠藤勤助、山尾庸三、井上勝)としてその功を称えられることになります。

時代は下って2013年、彼らも見たであろうロンドンの地下鉄が開業150周年を迎えました。東京の地下鉄はロンドンよりも優れていると思いますし、地下鉄に限らず、日本にとっての英国は一方的に学ぶ対象ではなく、同じ先進国として、人類が未だ直面したことがない課題に共に挑戦する対等なパートナーとなっています。

変化が激しく、明確な解がない現代の世界において必要とされる能力とはどのようなものでしょうか。それは、①世の中を広くそして深く理解し、②そこから問題を発見し自らその解決策を見出すことができる能力だと考えています。

このパンフレットを御覧になっているみなさんは、後者の能力については相当のポテンシャルをお持ちだと思います。知識や経験をさらに広げることができれば、自分の能力を活かす場所や方法についても自ず

経歴

- 平成14年 4月 総務省採用
同 行政管理局企画調整課企画調整係
- 平成16年 3月 同 行政評価局政策評価官室
- 平成18年 4月 同 行政管理局企画調整課企画調整係長
- 平成20年 4月 仙台市総合計画課長
- 平成22年 4月 内閣府地域主権戦略室参事官補佐(総括)
- 平成24年 8月 現職

と見ててくれると思います。

広く深く世の中を知り、自らの幅を広げるという点において、総務省は素晴らしい機会を提供してくれる場です。総務省職員が活躍できるフィールドは、日本全国、世界各地に広がっています。行政サービスの最前線である地方自治体では「現場感覚」を鍛えられます。国では、行政改革や地方分権改革など省庁横断的な大きなテーマに取り組むことによって「オールジャパンの視点」を獲得することができます。そして、留学や在外公館での勤務を通じて、「多角的に物事を見る能力」を養うことができます。

これはあくまで一例ですが、このパンフレットに掲載されているように、幅広いメニューから選択して、自分なりのキャリアを構築していくことが可能です。そして、そうした多様な能力を持った人材が切磋琢磨し、組織として大きな力を発揮するというのが総務省の強みです。

ロンドンに身を置いて、世界の変化を日々肌で感じています。どの国も自らが進むべき道を必死になって模索しています。時代の岐路に求められるのは、世界の複雑さと多様性、そして不確実な将来と真正面から向かい合い、変化を恐れずに決断を下していくことです。英国は、そうやって激動の世界を乗り越えてきましたし、伝統の上にあぐらをかくことなく、昨日より明日をよりよくするために常に大胆な挑戦を続けています。その点では学ぶべき点はまだたくさん存在します。

長州ファイブの留学から200周年を迎える2063年の日本をどのような国にするかは、現代を生きる我々の手にかかっています。厳しい選択の連続になると思いますが、大きなやりがいのある仕事になることは間違いありません。みなさんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

在フランス日本国大使館一等書記官 大塚 康裕

私は、フランスの日本国大使館において主として情報通信分野における日仏関係の窓口を担当しています。新しい携帯電話事業者の参入がもたらした料金競争の功罪やインターネット上のプライバシーの問題など、フランスにおいても身近な情報通信サービスをめぐる政策論議が新聞紙面を飾らない日はありません。それぞれの国における政策形成に役立てるべく、こういったサービスや政策の動向について日仏の当局間で情報を交換し、また、必要に応じ、多国間の議論に備えた意見調整に当たる際の窓口を務めています。

14年前に将来の働き方について考えた際、私にとって最大の関心は、企業や人々の活動の支えとなるようなルールづくりに携わることになりました。霞ヶ関の省庁では日夜政策立案が行われていますが、情報通信はここ数十年にわたって最も変化が激しい分野のひとつであり続けてきたと思います。私もこれまで携帯電話市場における競争促進など国内で大小の政策形成に携わってきましたが、利害関係者や専門家の意見を求めるだけではこれから打ち出そうとしている政策が将来の競争やサービスの発展をゆがめることとならないか懸念が払拭できないことがしばしばあります。このように将来が見渡せない中であ

て、各国政府の取組やその結果に関する情報が我が国の政策の方向性について一定の示唆を与えてくれることは少なくありません。現在私が担っている情報収集の成果はこうした政策形成に活かされています。

パリにいる間、私自身が我が国の政策立案に直接携わることはありませんが、総務省で政策立案に当たっている担当者の意図を汲み、フランスの担当者から少しでも有意義な情報を引き出し、あるいは有利に働きかけを行うためにはこれまで自ら情報通信分野の政策立案に携わることで培われた知識と経験が欠かせません。フランスの政府担当者も新しい課題にどう取り組むか真剣に考えており、彼らとのやりとりは、我が国の制度の在り方につながる重要な要素について考える機会となります。また、両国の制度の違いが公の役割や文化的アイデンティティといった極めて基本的な事項に根差していることを感じることもしばしばあります。他国とのやりとりの面白さは、こういった発見にあるかと思います。いろいろな気づきを楽しみながら、こうした経験により培われた視座を将来東京で自らが政策形成に携わる際に役立てていきたいと考えています。情報通信という国境を越えるネットワークを扱う総務省では国内における政策立案への関与と海外勤務を通じた政策立案への間接的な貢献とをバランスよく経験することができると考えています。情報通信分野の進化はこれからも続きます。広い好奇心を持った皆さんが総務省を訪ねてくださることを期待します。



内と外

経歴

- 平成12年 4月 郵政省採用
同 大臣官房国際部国際政策課国際機関室
- 平成13年 1月 総務省総合通信基盤局国際部国際政策課国際機関室
- 平成14年 7月 米国留学(南カリフォルニア大学、ハーバード大学)
- 平成16年 7月 財務省大臣官房総合政策課調査第二係長
- 平成18年 8月 総務省総合通信基盤局国際部国際政策課国際機関室課長補佐
- 平成19年 7月 経済協力開発機構(OECD) 科学技術産業局 情報・コンピュータ・通信政策課政策アナリスト
- 平成21年 7月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部 事業政策課課長補佐
- 平成23年 1月 内閣総理大臣補佐官付
- 平成23年 9月 総務省総合通信基盤局総務課課長補佐
- 平成24年 5月 現職



日米桜寄贈100周年の授種樹式にて(筆者中央)

やる気があれば何でもできる総務省

在サンフランシスコ日本国総領事館副領事 萩原 啓

皆さんは就職活動において何を一番重視していますか。8年前の就活まっただ中、私は「仕事の内容」と「そこで働く人の人間性」の二つの要素は絶対に譲れないと思い、これらを追求した結果、総務省に行き着きました。実はほかの省庁が第一志望だったのですが、官庁訪問で出会った先輩がみな目をキラキラさせて今の仕事のやりがいやドラマいっぱい地方生活について熱く語るのを見て心が動いたのです。当時の採用担当者の「やる気があれば何でもできる総務省」という言葉に惚れ、その言葉の無限の可能性に賭けてみようと思ふと総務省を志すようになったことを今でも鮮明に覚えています。もちろんその言葉が真実であったことは言うまでもありません。

総務省の魅力は何と言っても国と地方を行き来することにより地に足のついた政策の企画立案ができることです。「日本の元気は地方から」をモットーに国と地方の橋渡し役を担い、地方を盛り上げることなら何でもできるのは総務省のみの特権です。実際、私が総務省に入省してからは、秋田県庁に赴任するととも

経歴

- 平成18年 4月 総務省採用
同 自治体局公務員部公務員課
- 平成18年 8月 秋田県総務企画部市町村課
- 平成19年 7月 総務省行政管理局管理官付
- 平成21年 4月 同 自治体局地方債課
- 平成23年 7月 同 大臣官房企画課
- 平成24年 3月 現職

に、行政組織・定員管理、地方債・宝くじ制度、総務省の政策の企画立案など国・地方における各種課題を前に極めて多様な仕事に携わってきました。現在、私は米国カリフォルニア州サンフランシスコの日本国総領事館で副領事、すなわち外交官の仕事をしています。

現在の私の仕事は、カリフォルニア州とネバダ州において、政府・議会の動向把握、関係構築を図るとともに、地方間国際連携(姉妹都市交流など)を促進・支援することなどが挙げられます。特にカリフォルニア州は州単独で世界第9位のGDPを誇り、輸出入、雇用、投資、農業、観光などの面で我が国とは切っても切れない関係を有しています。また、世界で最初の日本国在外公館が設置され、第二次世界大戦後にはサンフランシスコ講和条約や旧日米安保条約がサンフランシスコで署名されたように歴史的にも深いつながりを持っています。米国の政治、経済の中心地の一つであるサンフランシスコにおいて総務省の人材が必要とされているのは、米国政治・行政の最前線で活躍するに当たり、地方行政、財政、税制のプロとして幅広い知識・経験が求められているからに他なりません。

たった一度の就職活動において妥協は不要です。「仕事の内容」と「そこで働く人の人間性」を求めて「やる気があれば何でもできる総務省」の門戸を叩いてください。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。